

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果について

令和6年4月18日に実施された全国学力・学習状況調査（国語・算数）の結果概要をお知らせします。

《教科別学習状況調査結果》

国語	平均正答率 (%)
本校	72
神奈川県	67
全国	67.7

「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」ともに、全国、神奈川県よりも正答率が高くなりました。「思考力・判断力・表現力」の【話すこと・聞くこと】【書くこと】【読むこと】すべてで全国より正答率が高い結果となりました。

問題別にみると、【話すこと・聞くこと】の、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる【読むこと】の登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題は、全国平均より6%以上高い正答率でした。

一方「書くこと」の目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題は、全国平均よりは上回りましたが、正答率が58.3%という低い結果となりました。

算数	平均正答率 (%)
本校	68
神奈川県	64
全国	63.4

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」ともに、全国、神奈川県よりも平均正答率が高くなりました。特に高い正答率だったのは、「知識・技能」の【変化と関係】で全国平均より9.7%高くなりました。問題形式で見ると、選択式、短答式、記述式すべてで高い結果となっています。

問題別にみると、「知識・技能」【変化と関係】の速さの意味について理解しているかどうかをみる「思考力・判断力・表現力」【変化と関係】の速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題は全国平均よりも約10%以上の正答率となりました。

一方「知識・技能」【図形】の直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる【数と計算】の除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる問題は全国平均より低い結果となりました。

○調査結果と分析

国語、算数ともに全国及び神奈川県と比べ高い正答率となりました。全体的に「知識・技能」が身に付いており、その力が「思考力・判断力・表現力」の力につながっていると考えられます。また、「国語・算数の勉強は好きか」という質問で、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した児童が約6割、「国語・算数の勉強は大切だと思うか」の質問でも「大切・どちらかという大切」と約9割以上が回答していて、概ね前向きに学習に取り組んでいます。

しかし、課題としては、国語では、自分の考えを相手に伝わるように表現する力が挙げられます。指定された資料を踏まえていない誤答が目立ち、複数の情報を使って自分の考えが伝わるように文章を書くことの難しさが表れました。また、他の記述式の設問からは、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討する力も課題として挙げられました。

算数の道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が37%という結果となりました。具体的な数値が示されていない場面で、問題解決に必要な情報を見出す力や、適当な数値をあてはめて考える力の不足が課題として挙げられました。

○課題に対する手立て

- ・基礎的、基本的な知識や技能をしっかりと身に付けていけるよう毎日の授業に取り組んでいきます。
- ・目的や意図をもとに自分の考えをしっかりとち、筋道を立てて考えていく論理的思考を育てます。
- ・子ども自らが問いを立て、主体的に学習していける授業づくりを進めていきます。